

安心して暮らせる地域づくり ～新機能と災害時の活用～

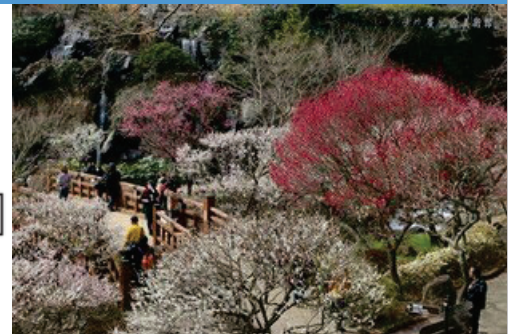
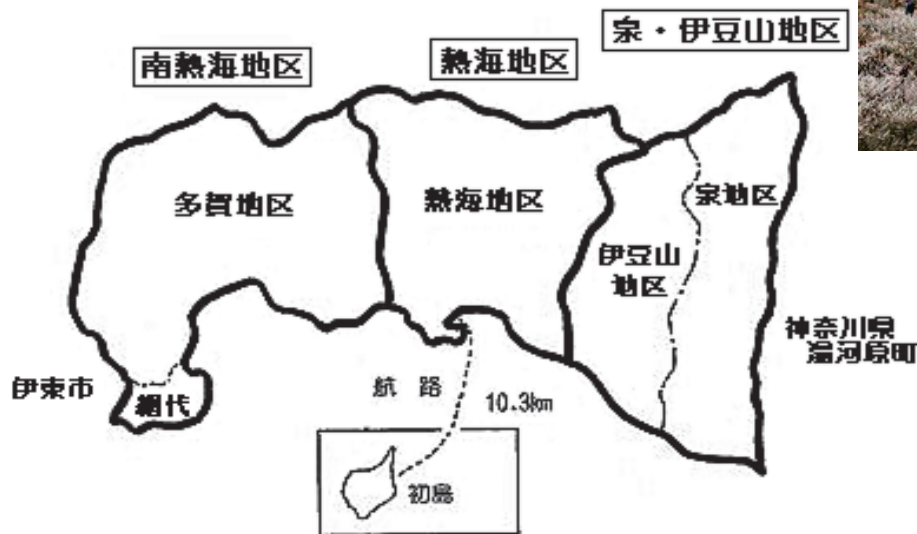


令和5年3月25日

1

熱海市の概要

日常生活圏内域地図

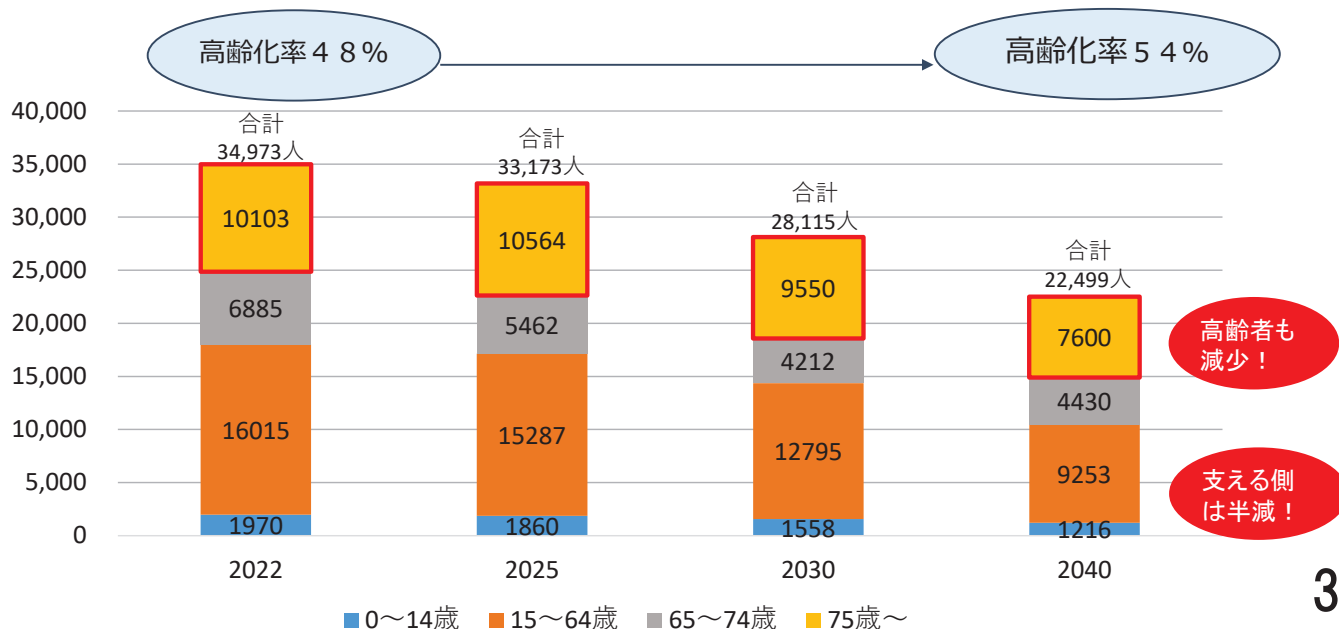


- 人口：34,360人(令和5年1月末現在)
- 日常生活圏域：3圏域

2

人口の推移

- 熱海は高齢化の先進地。現在の高齢化率は48%（全国28%）ですが・・・
- 実は、**高齢者（65歳～）の数は既に減りはじめています。**
後期高齢者（75歳～）で見ても、2025年まで増え続けたのち、**大きく減って**
いきます。
- 同時に、**若者の数は更なるハイペースで減っていきます。**



3

高齢者の世帯の状況

- 世帯で見ると、高齢者のいる世帯（12,151）は総世帯（21,106）の57%を占めています。
- 中でも、**高齢者ひとり暮らし世帯**の割合が非常に高いことが熱海市の特徴です。

	世帯類型	世帯数
高齢者のいる世帯	高齢者ひとり暮らし	7, 571
	高齢者夫婦のみ	2, 858
	子ども等との同居	1, 582
	その他 (65歳以上の親子、兄弟など)	140
高齢者のいない世帯	-	8, 955
合計		21, 106

課題

- ・ 独居の方の「閉じこもり」防止
- ・ 買い物、ゴミ出し、掃除などの家事支援
- ・ **自宅で暮らし続けるための医療、介護**
- ・ 親族のない方の財産管理、死後のこと など

4

シズケア*かけはし・熱海市の活用状況

- 熱海市では平成29年から登録開始。現在、多くの医療機関や介護事業所が登録、情報共有に活用。
- 日常的に在宅医、病院、ケアマネジャー、訪問事業所などがチームとなり、在宅医療を支えている。
- 特別な活用方法としては、令和元年の大雨の際の断水や、令和3年の伊豆山土石流災害などの際には、多くの関係者との情報共有にシズケア*かけはしを活用。行政でつかめなかった在宅避難者の発見や、通院できない在宅患者の診療や薬の宅配に活用。

5

シズケア*かけはしの活用状況

熱海市の登録事業所

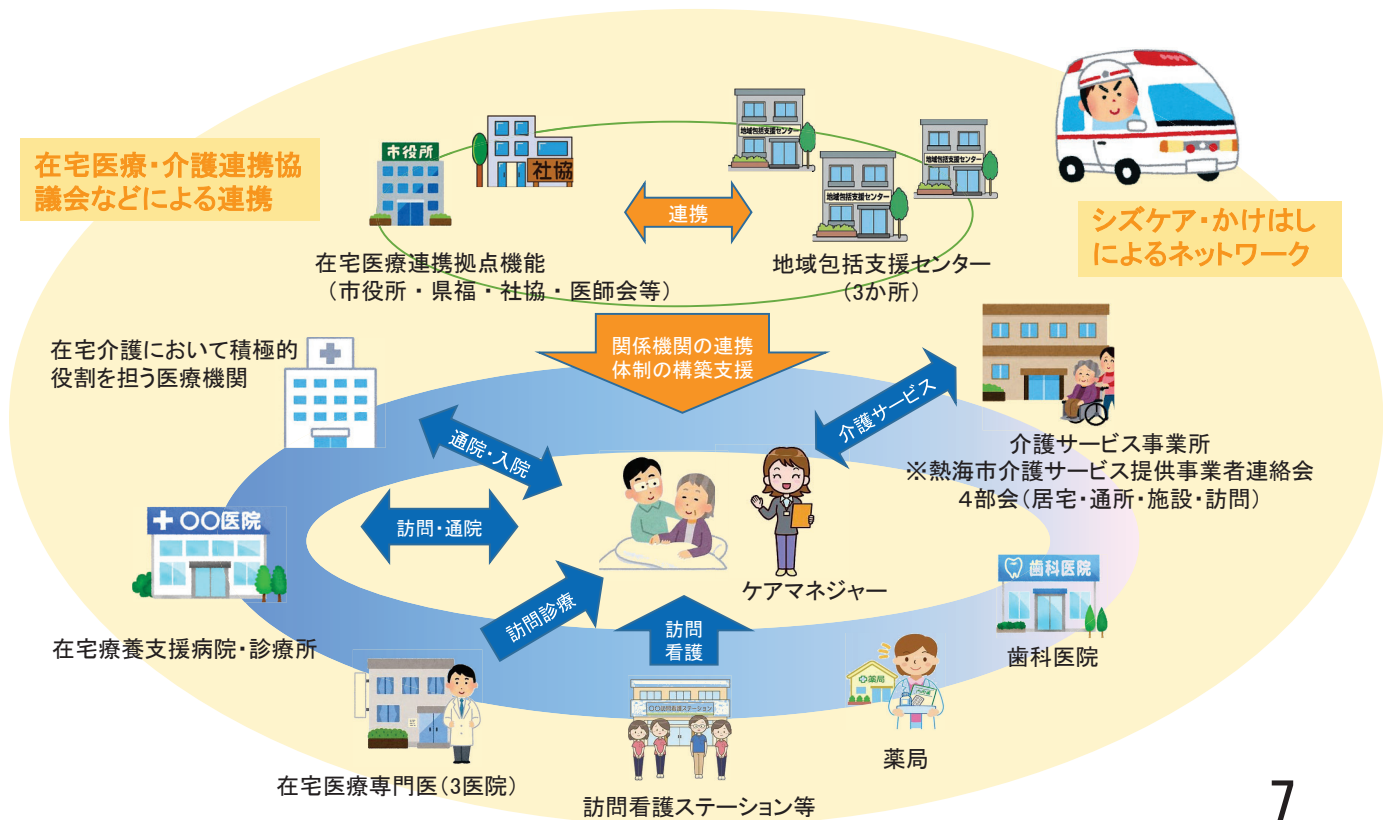
66か所

病院・医院：14	歯科医院：1
サービス事業所：12	薬局：11
包括支援センター：3	
居宅介護支援事業所：16	
訪問看護ステーション：4	
その他5（医師会・行政・社会福祉協議会等）	

→居宅介護支援事業所は9割近い登録率

6

熱海市の在宅医療・介護連携

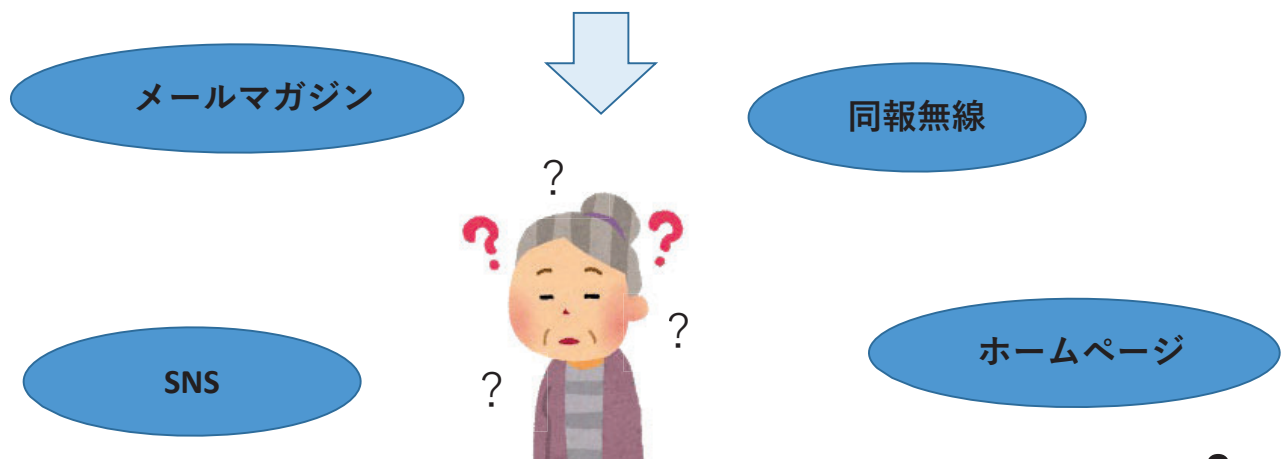


災害時のシズケア*かけはしの活用(台風19号)

台風19号による断水の影響

令和元年10月12日の夕方から断水が発生し、全世帯の1/3世帯が断水していると職員メールが入る。

14日 包括支援センターから電話！高齢者に情報伝わってないよ！



給水車が巡回し始めているが...

断水地域を1～2台の給水車で朝から巡回して給水しているが、給水ポイントと時間も高齢者のみの世帯では把握出来ず、孤立している。刻々と近隣市町が支援を申出てくれて、定点給水も開始されるが、その情報も伝わらない。

ようやく給水ポイントに辿りついても重くて水を部屋まで運べない！

高齢者に情報をどうしたら届けられる？

そうだ！
シズケアだ



掲示板だ！

考える時間も無く、とりあえず市で持っている情報をシズケア登録先に掲示板で全部流す。

事業所から続々と情報が入りだす。「給水場所を伝えました」「水を運んでいます」などなど。高齢者施設のなかで、重点給水されていない場所も同時に把握し、手当をすることもできた。

台風19号

断水から5日目にはケアマネや包括から支援の限界・・・という連絡が入り出す



ボランティアセンターの立ち上げを社会福祉協議会と連携。ボランティアの活動を開始する。



事業所での支援ケースを手放してもらおうようにシズケアで呼びかけ、ケースについての情報を入手し、ボランティアに繋ぐ。

11

台風19号

思いがけない使い方だったが、災害時などの情報共有にも有効な場合があることが理解できた。

断水が落ち着いて後に市内の居宅介護支援事業所に対し、断水期間中の高齢者支援数を確認したところ以下の回答を得た。災害時に虚弱な高齢者に対して迅速かつ適切に支援して頂いた介護事業所の皆様に対し、後日研修会の場を借りて謝意を伝えた。事業所以外にも地域の住民同士が支えあって事なきを得た地区もあり、改めて住民同士の絆の重要性に気付くと共に、災害に強い地域づくりと地域包括ケアシステムの地域づくりは同じであると実感した。

	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
事業所数	8か所	8か所	8か所	8か所	8か所	6か所	2か所	1か所
人数	30人	50人	30人	25人	15人	5人	4人	1人

12

災害時のシズケア*かけはしの活用(土石流災害)

死亡（関連死含む）28名、中等症3名

全壊世帯76世帯、大規模半壊5世帯、中規模半壊1世帯

1日の避難所への避難者は最大588人

市内のいくつかの大型観光ホテルを避難所とし活用

7月4日～10月21日まで

最長110日間

県・市町職員応援派遣：延べ1,759人

DMAT派遣：延べ116人

県内保健師応援派遣：延べ302人



13

土石流災害

- 発災翌日より掲示板で被害状況などを発信
最初は1日数回、その後2～3日に1回、週に1回と変更
- 避難所で入手した薬剤情報(メモの写真)をセキュアメールで薬局に送り、薬の手配を依頼
- 通行止めが長期に亘ったため、在宅避難者が受診できない事態に。
医師会・薬剤師会と協議後、電話診療→薬局にFAX→
薬局が自宅へ薬を届ける仕組みとする。避難者にこの方法を伝える手段としても、シズケア*かけはしの掲示板を利用、ケアマネや訪問事業者から伝達してもらった。

14

土石流災害

- 被災地伊豆山地域のほぼ全域が長期間停電となった
電気が普及するとともに、自宅が無被害な方は徐々に帰宅して行った。帰宅した方で在宅生活が心配な方はシズケア*かけはしを活用し見守りを行った。
- いくつかの介護事業所が伊豆山地域にあり、電話・FAXが使えず事業所の置かれた状況を市内の他の事業所に知らせる術が無かった。
→ 掲示板に事業所の被災状況を随時掲載することで、居宅や他の事業者から携帯に連絡が入り、サービス継続や支援に繋がった
- シズケア*かけはしで介護事業所が被害や避難の状況をオンタイムで知ること、自力避難できずに被災住宅に留まっていた高齢者を把握することができ、結果として自衛隊や警察に避難を依頼することができた。

15

土石流災害

伊豆山地区の皆様

受診が出来ずお薬が無くなりそうな方々へ（ご案内）

この度は伊豆山地区で発生した災害につきましてお見舞い申し上げます。断水や交通手段が止るなど生活に支障がある日々が続き、不安な生活が続いていると思います。

そんな中「いつも飲んでいる薬が無くなりそう」「定期受診日だったのに受診が出来ない」など困った方々には、当面の間かかりつけ医が電話で対応をしています。

【手順】

- ① 普段かかっている医院・クリニックに電話して相談。
受診が出来ない状況を伝える。その際に、かかりつけ薬局（普段利用している薬局）を伝える。
- ② かかりつけ薬局から受け取りについて電話が入ります。
- ③ 薬局から薬を受け取り代金を払う。

*一部の医院・薬局（湯河原地区など）では対応できない場合があります。下記までご相談ください。



【問合せ】

熱海市役所健康づくり課
電話 0557-86-6295

16

「救急かけはし」モデル事業

- 「救急かけはし」は、熱海市を含む県内2市でのモデル事業として実施（令和4年度）。
- 全国に普及している「救急医療情報キット」のウェブ版としての活用方法を想定。
- 独居高齢者や障害者などが申請、「シズケア＊かけはし」の救急機能に本人情報を登録することで、その人が119番通報した段階で救急隊員がiPadで患者検索、登録者にヒットすると、かかりつけ医や緊急連絡先が判明、搬送先の病院も情報を共有可能。



17

「救急かけはし」の活用状況

- 令和4年10月市の広報誌にて救急かけはしを周知
- 市の窓口や地域包括支援センター、担当ケアマネジャー、病院などが中心となって救急かけはしの登録を行い、現在のシズケア登録者は約600件。
- 救急要請された人でシズケアに登録していたケースは7件とまだ少ないが、救急隊は薬剤情報など詳しく情報が把握出来、迅速な対応に繋がった。
- 本来救急搬送時に威力を発揮するが、医療・介護・福祉等に情報を共有できる同意書になっているところに注目！

18

「救急かけはし」の活用状況

救急かけはしの登録者が増えてきたため、令和5年1月に救急かけはしの図上訓練を実施。救急隊と熱海所記念病院、国際医療福祉大学熱海病院の救急外来スタッフなどが集まりiPadの操作などを再確認した。



19

「見守り機能」の活用

- 医療や介護サービスに繋がっていないケースの見守りをする際に、本人に同意を得てシズケア*かけはしに登録。来所日やその時の様子などを地域包括支援センターや社協と共有するために使用している。
- 虐待ケースでは市と地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護ステーションがチームになり痣の写真や経過を共有。

本日...来所...
食料はあると言っていました...



20

シズケア*かけはし普及のために取組んでいること

- 町内会や団体に向けて説明会を開催
- 独居高齢者から相談を受けた際に救急かけはしも一緒に勧める
- 医師会主催でSBSの操作説明会を実施
- 居宅介護支援事業所などに市職員が出向いて出張説明会を行う
- 居宅部会をWebexで行えるよう、操作説明や操作支援をしている
- 操作で困った時は、すぐにシズケアサポートセンターに相談！



21



ご清聴ありがとうございました。

22